

2022年「共通テスト実施要項」公表！

スタナインは1月21日、大学への成績提供は2月7日！

旺文社 教育情報センター 2021年6月11日

大学入試センターは本日、2022年の「共通テスト実施要項」を公表した。大卒はすでに発表されていたり、例年と同様で注意すべき点はない。ただしスタナインの公表が大幅に早められて1月21日となった点、大学への成績提供が昨年度同様の2月7日以降となった点は注目だ。

●注目ポイント&変更点

- ・本試験 = 1月15、16日
- ・追試験（再試験） = 1月29、30日 ※本試の2週間後
- ・スタナインの公表 = 1月21日（予定） ※昨年度=2月4日
- ・大学への成績提供 = 2月7日以降 ※昨年度=2月8日以降
- ・大学が入試センターに支払う成績提供手数料=受験者1人1回につき1,200円
※昨年度=750円

上記以外の日程、試験科目・配点、時間割、検定料等は昨年度と同様。

●本試、追試の日程、大学への成績提供

試験日はすでに先週、文科省「入学者選抜実施要項」で公表されている。昨年度は特例的に「第1日程⇒第2日程⇒特例追試」の3段階構えとなったが、「本試⇒追試」に戻った。しかし各試験の間隔は昨年度ママの2週間だ（例年は1週間）。

その結果、本年度も大学への成績提供日が例年より約1週間遅い日程となった。特に私立大にとっては共通テスト利用入試の合格発表日に影響が出るだろう。

なお追試の試験会場は、例年は基本的に全国で2会場だが、本年度は文科省が秋ごろに感染状況を踏まえて決定することになっている。

●スタナインの公表

スタナインの公表は昨年度より大幅に早められた（2月4日⇒1月21日（予定））。スタナインは昨年度からの新しい成績表示で、受験者の科目別の成績を得点の分布により9段階で表示する（例：物理で「100～92点=9」「91～83点=8」…）。

例えば大学は「合格者の9割は例年どおり得点上位から決定。残りの1割は全科目のスタナインが『6』以上の受験者を抽出し、その得点上位者で決定」というように活用できる。

大学にとっては合否判定の方法の幅が広がり、有益であると思われる。しかし昨年度の利用は0校。また、結果の公表が遅く、日程的に大学が利用するのは難しかった。

しかしスタナインの公表時期が大幅に早まったことで、大学が利用する道は一気に拓けた。本年度はすでに入試ガイドを公表している大学も多いため、利用校は限定的かもしれないが、来年度以降は増えていく可能性がある。ただ追試の実施よりも先となってしまっていて、追試受験者の扱いはわからない。

なお、公表されるのは各科目のスタナイン「換算表」であり（各科目の何点がスタナインの何に該当するのかを示した表）、受験者は正確に自己採点をして自分のスタナインを把握することが必要となる。

●大学が入試センターに支払う成績手数料

この1～2年で急に表面化してきた入試センターの経営難の問題。4月9日に公表された入試センターの「運営審議会将来構想ワーキングチーム 議論のまとめ」では、「成績提供手数料をさらに大幅に値上げすることが必要となる」とされていた。

今回は1件「750円⇒1,200円」の値上げだが、そもそも昨年度も570円から値上げしているので、2年連続で2倍以上の値上げとなった。

●追試の対象者

追試はこれまで、本試を1日単位で欠席した者しか認められなかった（1科目でも受験してしまうと対象外）。これが昨年度は新型コロナ対応として、教科・科目単位で追試が認められた。本年度の対応については実施要項になく、入試センターは今後発表するとしている。

●全体のスケジュール

・受験案内の配付	= 9月1日から
・出願	= 9月27日～10月7日（検定料払込=9月1日～10月7日）
・確認はがきの送付	= 10月下旬まで
・受験票の送付	= 12月中旬まで
・本試験	= 1月15、16日
・追試験（再試験）	= 1月29、30日
・平均点等の中間発表	= 1月19日（予定）
・平均点等の最終発表	= 2月7日（予定）
・得点調整の有無	= 1月21日（予定）
・スタナインの換算表	= 1月21日（予定）
・大学への成績提供	= 2月7日以降
・本人への成績通知	= 4月1日以降

(2021.06 石井)